



vol.75

2019年
8月31日
発行

日本山岳会

「高尾の森」



通信

—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数：187名
(2019.7.31 現在)



デザイン画：石橋英寿（B班会員）

小下沢 NOTE 夏

6 月定例作業



各班 下草刈りが主作業です



作業地の下草が生い茂っています



作業道の下草も伸びています



C班 作業前の集合写真



水路補修の精鋭部隊集合!



刈払機作業講習会を実施しました

7 月定例作業



出発前の準備運動は念入りに実施



調査先で
野ウサギの赤ちゃん
発見!

野ウサギと石の
区別が付きません?!



D班 出発前の新メンバー勢ぞろい



B班 新メンバーでハイチーズ!



A班 道づくりに励んでいます



新人研修を熱心に
実施しています

ベースに戻れば今日
は
お汁粉でした



八王子環境フェスティバルに出店



みなさんの協力でトイレが改装されました



もくじ

小下沢 NOTE.....	02
自然保護区のシカ管理.....	04
2019 年度通常総会報告.....	06
2019 年度事業計画の概要.....	07
新リーダー紹介.....	08
もう一つの針広混交林づくり.....	09
女性のための森づくり研修会.....	10
都有林プロジェクトの現状.....	10
幹事会だより.....	11
事務局からのお知らせ.....	12

8月定例作業



D班今日の作業ミーティングです



道具班でハチジェット等販売中です



つる切りに奮闘中です



涼しいザリクボ沢でランチです



ザリクボ沢の溪流がさわやかです

今日の楽しみは
作業後のスイカ!



総会特別講演会の内容を梶先生に寄稿頂きました。

自然保護区の シカ管理

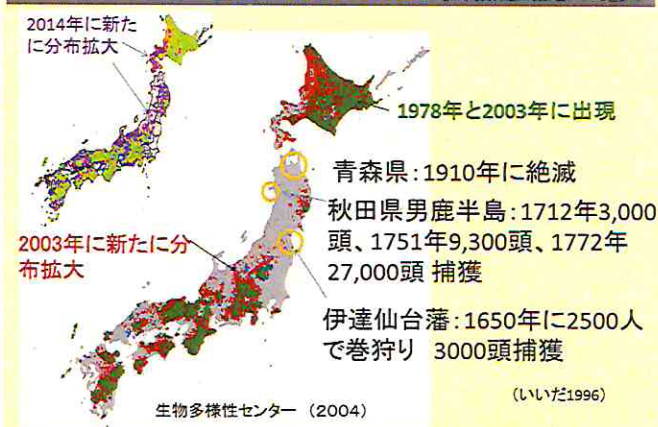


ニホンジカの歴史と生息状況

日本は江戸時代から昭和の半ばまで、森林の過剰な伐採によって、過去 300 年以上の荒廃が続いていたが、昭和 30 年代からの治山・砂防事業および燃料革命によって、最近の 40 ～ 50 年間で量的には劇的に回復した。ニホンジカやイノシシなどの大型野生動物も江戸時代から明治期にかけての乱獲によって、生息数が著しく減少し、東北地方などの多雪地では絶滅状態が続いていた。保護政策や森林の回復、里地里山での急速な人口減少によって、近年、長らく空白となっていた地域へニホンジカが急速に再分布し、全国の自然公園 89 のうち過半数で自然植生被害が発生している(図 1)。すなわち、これまでの人口増加にともなう資源の収奪の時代から、森林の回復、大型獣の分布拡大と生息数の増加が人口減少とあいまって同時代的に進行する時代へと移行し、私たちはかつて経験したことのない問題に直面している。

図 1

ニホンジカは1978年から2014年にかけて2.5倍に分布域が拡大し、全国の自然公園83のうち1/2以上で自然植生被害が発生



東京農工大学名誉教授
梶 光一



ニホンジカの個体数変動、生態的特性、植生への影響

私が 40 年かけて調べたエゾシカでは、完全に保護された場合や捕獲が不十分だと、低密度から出発した個体群は、爆発的に増加し、生息地の植生に強い影響を与えた。洞爺湖中島では、高密度となったシカはササを食い尽くし、樹皮を剥皮して植生を破壊し、林床には植被が失われて裸地となり(図 2)、餌不足に陥った群れは大量死亡した。図 2

冬季の最も重要なササは1982年以降に消失。越冬地では樹皮食いが進行。林床に植生が欠落。



このように植生に強い影響を及ぼす原因として、ニホンジカの次のような生態的な特性がある。ニホンジカは繁殖力が高い(エゾシカでは妊娠率が1歳で90%、2歳以上だと100%近い)ため、年平均で16～20%と高い増加率で増加するため、捕獲がなければ生息数は4年で2倍以上になる。食性の幅が広く、ごく一部の不嗜好性植物を除いて何でも食べる。野生動物は、高密度になるにつれて、出生率の低下や死亡率の増加などの密度効果によって、個体数が一定の幅で安定する傾向があるが、ニホンジカの場合、このような密度効果が生じにくい、高密度となる。また、大きな群れを作るので、被害が生じやすい、などの特徴をもっている。一方では、豪雪や乱獲により、激減しやすいという性質ももっているが、過去 40 年間には、厳冬による大量死亡は生じていない。すなわち、捕食者不在

あるいは人為的な捕獲が不十分であると、ニホンジカの個体数は平衡状態とはならず高密度に達して、植生を破壊する。

このように、ニホンジカは植生・土壌・物質循環などの物理的環境を改変して他の生物の資源状態を改変する効果をもたらすので、生態系エンジニアと呼ぶことができる。そのため、自然公園での問題として、生物多様性の保全や生態的プロセスの保全があげられる。

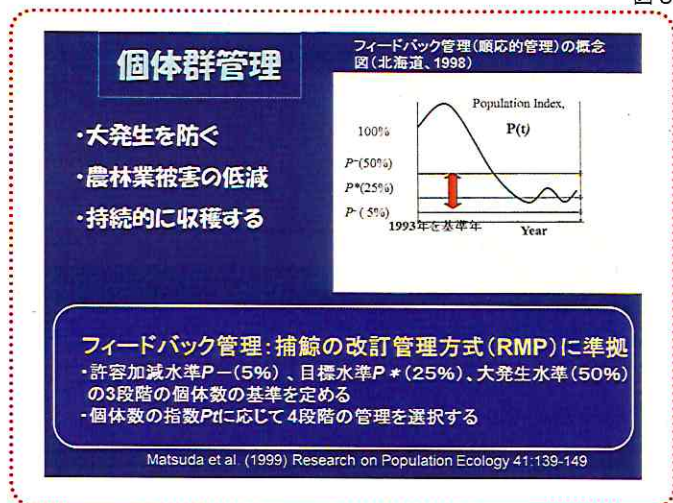
先進事例からの課題と展望

1) エゾシカの順応的管理

北海道のエゾシカは、乱獲と大雪によって、かつては絶滅寸前まで激減したが、保護政策、生息地の改変などによって、劇的に分布が回復し、生息数が増加した。それにとともに、農林業被害のみならず、交通事故や列車事故が増加し、さらには国立公園などの自然植生にも強い悪影響をもたらせた。

シカの増えすぎを原因とするこれらの問題を解決するためには、増加率以上の捕獲圧をかけて、生息数を低減させる個体数管理が必要となる。そのためには捕獲目標を設定する必要があるが、見通しの悪い森林に生息する野生動

図 3



物の生息数を正確に知ることは困難である。そこで、エゾシカの管理では、正確な生息数がわからず、個体数が変動する(非定常)なエゾシカを科学的に管理するための、個体数推定方法や管理方法を確立し、順応的管理(フィードバック管理)の仕組みを構築した(図3)。順応的管理とは、自然資源の管理システムであり、順応的学習とフィードバック管理の二つの方法を用いて継続的に管理方針と実践を改善していく方法である。絶対数がわからなくても、生息数の動向を示す個体数指数を用いて、その増減の動向によって捕獲圧を調整する方法である。管理計画の目標としては、大発生を防ぐ、農林業被害の低減、持続的に収穫する、の3つを掲げている。

2) ニホンジカ低密度地域の取り組み(赤谷プロジェクト)の紹介

群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる、約1万ヘクタール(10km四方)の国有林「赤谷の森」を対象に、地域住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、林野庁関東森林管理局、日本自然保護協会の3つの中核団体が協働して、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める取り組みが、赤谷プロジェクトである。

赤谷プロジェクトでは自動撮影カメラと食痕調査によって、シカの分布域の拡大と相対的な密度指標の増加があるが、過剰な採食による植生衰退はまだ生じていない段階であり、高尾の森の状況に近い。ここでは、中期目標として、赤谷の森の生物多様性を健全な状態で保全すること、短期目標として、林床植生の現状維持およびニホンジカ個体数の低密度維持をかけた、どのような状態になったら何を実行すべきかを関係者間で共有するため、指標と評価基準を設定している。

たとえば、森林では、以下の5つの評価項目を設定している。

- ①低密度維持(ニホンジカ個体数)
- ②健全な林床植物群落
- ③特に脆弱な生態系の維持
- ④健全な天然更新
- ⑤人工林管理への悪影響の防止

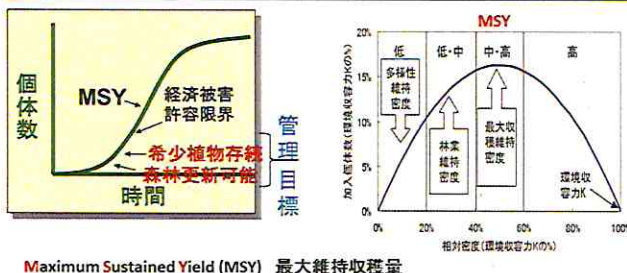


図 4

管理目標の明確化:何をめざすか?

シカの管理目標とする密度水準

持続的収穫(ジビエ) > 農林業被害低減 > 生多様性保全(希少植物、森林更新)



シカの管理を実行するためには、管理目標を明確にする必要がある。シカの管理目標とする密度水準は、持続的収穫(ジビエ) > 農林業被害低減 > 生多様性保全(希少植物、森林更新)であり、森林更新を図るためには、低密度管理が不可欠である(図4)。

2019年度 通常総会報告

日時：令和元年6月15日（土）15：00～16：30

場所：富士電機能力開発センター内会議室

議長：松川副代表、早川幹事

【定足数】会員数 189名……①

当日参加人数 37名

議決権行使 58名

委任状 27名

出席人数総数 123名……②

②／①＝65%…3割を超えて総会は成立した。

議事録署名人

議長から、議長から指名したい旨の発言があった。参加者の「異議なし」の声で了解を得たうえで、白井、日比野の両監査役が指名された。

第1号議案「事業報告書」

第2号議案「収支報告書」

事業報告は吉川代表より概要、松隈副代表より作業実施内容、小山事務局長より活動・運営内容等の議案説明の後、白井監査役から事業報告書、貸借対照表などについて、「いずれも適正に表示しているものと認める」とする監査報告があった。業務監査は、幹事会に監査役2人のうち1人は出席して意見を述べることで行った、との説明があった。

質疑はなく、第1号議案、第2号議案は参加者の拍手で承認された

第3号議案「役員改選」

吉川代表から、組織運営の強化のため、規約12条に基づき、幹事2人（追加選任が提案された。質疑はなく、第3号議案は参加者の拍手で承認され、大塚哲生、本山幸次の二人が新幹事となった（任期は2010年の総会時まで）。

報告事項

2019年度の事業計画について、吉川代表より新しい植栽地探しや針葉樹と広葉樹の美しい混交林を作ることへの原点に戻る思いを含む方針、松隈副代表より森林保全活動の作業内容について具体的に実施内容が説明され、小山事務局長からは運営体制と幹事の役割分担、新作業班編成等について説明があった。予算概要については湯川幹事が説明した。

質疑応答等

その後の質疑応答では、作業エリアのわかる地図が必要との要望、植樹祭の連絡時期等についての要望、今年度予算案は議案とすべきという意見（昨年も同意見があったが規約上、報告事項）、植樹した広葉樹の間伐提案などがあり、それぞれ質疑が交わされた。ホームページの現状、都有林整備の現況と今後、国有林内の活動に関する次期5カ年計画などについても説明があった。

< 2019年度 事業計画の概要 >

活動方針

春になると、北高尾の森には、山桜が咲き、一斉に広葉樹の葉が開き、日々緑の色が増していきます。当会には創設時から、広葉樹を植えて針葉樹と広葉樹の美しい混交林を作ろうという目標があります。そして、18年を経た当会の植栽地には、着実に広葉樹が美しい新緑の森を形づくっています。当会の創設者達の思いを心に刻み、新年度には、国有林に加えて、都有林の中にも、広葉樹の植栽地を増やすための準備と努力を続けることにします。

2021年には、当会の創立20周年が巡ってきます。また、2021年度から新5ヶ年計画をスタートさせなければなりません。このため新年度には、着実に計画された作業を行うとともに、新たな作業フィールドを探します。また、高尾の森の紹介と会の活動の広報活動を強化し、次世代を担う新しい人を会に招き入れる努力を続けることにします。

高尾の美しい緑の森を守り、また、会員が楽しく活動に参加できる場とするため、従来の班別組織の再編成を行うことにします。また、会員の健康と安全を守るために、研修会、講習会の充実を図りたいと思います。従来の慣行にとらわれずに、新緑に負けないくらい気持ちを新たに、山に向うことにしましょう。

森林保全活動

今年度は第4期計画（平成28年度から令和2年度）の4年目であり、小下沢国有林の平成26年度以降の植栽地の下刈り・つる切及び機械作業班の間伐処理、ザリクボ班の各種作業等を行い、板当国有林の間伐作業及びその付帯作業（歩道の維持補修、除伐・つる切・枯損木処理等）に取り組む。具体的には次のとおりである。

1. 活動箇所の位置、面積

東京都八王子市高尾 小下沢国有林 218～221林班内
（森林整備を行う箇所は 8.02ha 他に板当国有林 201ほへ林小班…0.77ha）

2. 活動の内容及びスケジュール

①小下沢国有林

活動内容	4月/5月	6月/7月	8月/9月	10月/11月	12月/1月	2月/3月	合計
植樹	0.02						0.02ha
地植え	0.02					0.01	0.02ha
*1 下刈り	0.40	0.31	0.30				1.01ha
*2 ツル切		1.80		1.00	0.90	0.90	4.60ha
間伐(221)	0.05	0.05	0.15	0.15	0.15	0.15	0.65ha
間伐(219)			0.15	0.15	0.15	0.15	0.60ha
*3 枯損木等			0.01	0.01	0.01	0.01	0.04ha
歩道整備	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	3.00km
*4 林道整備		3.70	3.60				7.30km
自然教室	4回(公募)	1回(公募)	1回(公募)				6回
森の研修会		1回(会員)	1回(会員)		1回(会員)	1回(会員)	4回
機械作業研修	1回(会員)	1回(会員)	1回(会員)	1回(会員)	1回(会員)	1回(会員)	6回
調査活動							動植物 樹液他
特別教育		1回(刈)	1回(チェ)				2回
春のイベント	1回(公募)						1回植樹
合計	0.49ha 0.50km	2.11ha 4.20km	0.60ha 4.10km	1.30ha 0.50km	1.20ha 0.50km	1.21ha 0.50km	6.91ha 10.30km

（注）森林整備については、実施する作業の種別に、実施予定面積（単位はha）を記載。

*1 下刈り 2014年、2015年植栽地 及び2018年植栽地

*2 ツル伐り 会植栽木の他に国植栽木（218林班）を試行する。

*3 枯損木等 台風被害木および雪害によるもの（予定）

*4 林道整備 小下沢林道、あずま林道、滝ノ沢林道が対象

②板当国有林（体験林業承認フィールド）201 ほか小班 0.817ha

保育間伐及び付帯作業（つる切、風倒木処理、枯損木処理、作業歩道の維持補修等）

3. 木工品の製作

森林整備活動で発生する伐採木を利用して木工品を製作する等の活動を行う。

4. 安全管理について

板当国有林 201 ほか林小班の間伐箇所は急傾斜で落石が多く、安全作業に向けて細心の注意を必要とする。このため、前年度までの安全への取り組みを継続し、ヒヤリハットの事案収集等を水平展開する。さらに安全に関する研修等を実施し、無事故に向けた取り組みをすすめる。

5. 第5次5か年計に向けた準備

①植栽候補地の植栽可能性調査を行う。

②間伐作業フィールド（ノコ、チェーンソー）の確保に向けた取り組みを行う。

6. 研修

①機械作業実践研修

伐採及び刈払い作業の技能向上及び安全技術の向上に向けた研修を継続する。

②森の研修会

森林環境の知識習得、森林保全活動の技術及び安全向上を目的とした研修会を前年度と同様実施する。

③特別教育

刈払機による作業及びチェーンソーによる作業の特別教育を継続する。

都有林プロジェクトの活動

前年度に引き続き、次の活動を継続する。

①親子森林体験スクールの植栽に向けての活動。

②来年度4月以降に植栽イベントを計画するための調査、間伐、地拵え等の実施。

③下の林道から上部の尾根に向けての歩道作り。

運営体制

1. 幹事役割分担表 統括業務 吉川代表

※執行責任者、他アイウエオ順表記

フィールド 主担当 ※松隈副代表 大森幹事 小山事務局長 松川副代表 ☆大塚幹事	○管理窓口（単年度計画、5ヶ年計画、作業報告、活動地の開拓） ○活動計画（作業班、作業計画、作業報告） ○研修会関連（機械作業研修、森の研修、新人研修、安全研修、フィールド研修等） < 仁藤幹事・組澤幹事主導 >
渉外 主担当（外部） ※松隈副代表 小木曾幹事 小山事務局長 仁藤幹事 湯川幹事 ☆本山幹事	○特別協賛企業及び法人企業担当 （継続的な支援依頼、新規法人会員勧誘、法人会費管理、法人会員より個人会員へ） ○緑推等役所関連団体窓口（補助金、協力関係） ○プロジェクト活動管理（三宅島、都有林） ○受託事業（一丁平、上柚木公園） ○普及教育（京王親子森林スクール、慈恵学園、清新一小父子キャンプ）○対外行事（紅葉鑑賞会ほか）
運営管理 主担当 ※小山事務局長 大森幹事 小木曾幹事 組澤幹事 早川幹事 湯川幹事	○総務（規約、幹事会、総会、組織、記念イベント、参加記録） ○広報（会報編集発行、ホームページ運営、活動記録写真） ○会員管理（入退会、会員名簿） ○会計（予算、決算、出納、会計監査、保険費・年会費管理） ○安全管理（衛星電話、緊急車両、無線機、救急セット、研修会） ○専門班管理（ものづくり・小屋管理、道具、調査、キッチン、環境整備、モニタリング調査、標識） ○調査／研究（動物、植物、メープル状況等）○関連団体対応（地域協議会、森づくり協議会ほか） ○会員行事（美林見学会ほか）

（注：新任幹事の役割分担については後日の第40回幹事会で決定した。）

2. 作業班

A 班（大塚哲リーダー）、
 B 班（山崎喜リーダー）、
 C 班（小野リーダー）、
 D 班（守永リーダー）、
 機械班（白澤リーダー）

3. 専門班

道具班（寺田リーダー）、
 ものづくり・小屋管理班（佐々木リーダー）、
 生態調査班（山崎勇リーダー／千谷リーダー）、
 キッチン班（福井リーダー）、
 環境整備班（小山リーダー）、
 モニタリング（龍リーダー）、
 標識（小南リーダー）

4. プロジェクト活動

三宅島（小木曾リーダー）、
 都有林（日比野リーダー）

5. 受託活動

一丁平（松川リーダー）、
 上柚木公園整備（松川リーダー）

※予算案省略

A班

大塚(哲)リーダー
自然環境の源流である
山への恩返し



A班の大塚です。山の健康・川の健康・海の健康・人の健康が連鎖している事を知り、自然環境の源流である山への恩返しをしたくてこの活動に参加しました。

参加者の皆様へのお願いです。無理の無い様に、とは言え、ご都合がつく折には定期作業等への積極的な参加をお願いします。

さて、今後の2年間の抱負として、定期作業の安全第一を心掛けるとともに、活動に参加する意義や楽しさも分かちあえればと思います。また、他の活動班や本活動を支えるスタッフの皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、必要な折には相互に協力する事も心掛けます。

ところで、良い事の反面、日々のギター練習時間が減るという個人的な悩みが増えました。それは兎も角として、自らなすべき諸事と折り合いをつけながら最善を尽くしますので、どうぞご支援の程よろしくをお願いします。

D班

守永リーダー

ケガ無く、楽しく汗を
かいて安全第一



D班のリーダーを務めます 守永です。作業地をザリクボ地域に限定して、当日希望者が参加する方式で運営されてきたザリクボ班が、D班としてメンバーを固定しスタートしました。会員の高齢化に伴い、ベースから作業地が遠いエリアのみの活動には限界も出てきたためです。会設立以来、植樹、下草刈り、間伐、地拵えを行ってきた小下沢地区での活動を再び定期作業に組み入れ、針葉樹と広葉樹が混じった多様で豊かな風景林の整備に注力することになりました。活動フィールドには登山道も通り、多くの市民が春はサクラ、初夏の新緑、秋は紅葉と身近に楽しんでいる森林の整備です。危険を伴う森林作業では、安全第一です。ケガ無く、楽しく汗をかいて、多様で豊かな森づくりができるように努めたいと考えています。班には、会設立当時の超ベテラン・メンバーも多く、その日の体調、体力に応じて活動していただければと思います。

新リーダー 紹介

B班

山崎(喜)リーダー

「ラク(落)！」の音が
響く急峻地



作業場所の板当国有林201林班は小班は急峻です。定例作業日には毎回、石が斜面をころがり、「ラク(落)！」の音が響きます。4月の定例作業で、今後2年間の作業予定場所を、班のみんなで歩きました。「暗いね」「アオキすら生えていない」。林内の印象について次々と声があがりました。植林地は木の成長に合わせて間伐しないと、林内は荒れ、表土の流出が心配です。自分たちで切って等高線上に並べた木に、落としたり石が「コン」と当たって止まったとすれば、下の林道までころがったかもしれない石が途中で止まったのですから、土が流れるのを防ぐささやかな役目を果たしたと、感じてもいいかもしれません。

リーダーを務める2年の期間の途中で還暦となります。現場は大変ですが、参加者が安全に活動してベースに戻るよう、微力をつくしたいと思います。よろしくお願いいたします。

機械班

白澤リーダー

現場では
少しでも多くの作業を



前回から継続で機械班のリーダーを務めさせていただきます白澤です。2002年に始めて植樹際に参加し、2004年5月から正会員となり早15年。入会当時は家族4人で参加させて頂いており、先輩方に子供をかわいがって頂きました。息子達も社会人になり、気が付けば自分も56歳ですが、この会ではいまだ若手です。そんな私が率いる機械作業班、とにかく機材が多いので、せっかく重い思いして現場へたどり着いたからには少しでも多くの作業を行おうとの思いからいつもベースへの帰り着くのがビリです。山を下りて途中ミーティングの音が谷筋を上がってきます。事務局長のマイクに“はい次、機械作業班 まだ帰ってない”ってな声が。ひどいときはベース小屋のシャッターが下りて土場に誰も居ないなんて時もありました。そんなブラックな機械作業班です。旧メンバーの卒業生見留さん、湯川さん、小木曾さん大変お疲れ様でした。そして新メンバーを3人迎えての総勢13名です。どうぞよろしくお願いいたします。これからの2年間事故無く作業を行いたいと思います。

C班

小野リーダー

「持続可能な森」へ
焦らず急がず



前期に引き続きC班のリーダーを務めることになりました。よろしくお願いいたします。高尾の森づくりの会の活動が始まり来年で20年を迎えようとしています。この間の会員各位の活動によって未整備の針葉樹林から森広混合林への移行も進んできており、美しい森がよみがえりつつあります。私が高尾の森の活動に参加した頃比べ、現れる動物の種類が増え、鳥の声も大きくなっているように感じられ、森の住民は確実に増加してきています。美しく、健康な森を育てるには間伐・草刈り・植林・さらにそのための道づくりなど多種多様な活動が必要です。また、植えた木が成長し成木になるには長い時間を要します。もののけ姫で有名な「たたら製鉄」を見学する機会がありましたが、ここで使われる燃料はすべて木炭です。その木炭の原料には松、栗、槇、ブナ、クヌギ、樺などが使われたようです。さらにそれら樹木を確保するため、植樹・育樹・伐採を30年サイクルで行っていたといいます。私が聞いた話では70年かかると言っていた人もいました。このように森づくりにはとても長い時間がかかり、一世代で完結することはできません。もっともっと森の住民が増え、美しく健全な森、「持続可能な森」になっていくよう、微力ですが、焦らず急がず、少しでも役に立てればと思います。くりにはとても長い時間がかかり、一世代で完結することはできません。もっともっと森の住民が増え、美しく健全な森、「持続可能な森」になっていくよう、微力ですが、焦らず急がず、少しでも役に立てればと思います。

もう一つの 針広混交林づくり

白井聡一

高尾の森づくりの会では、森林整備活動として落葉広葉樹の植樹、育成管理とスギ・ヒノキ林の間伐を20年間続けてきました。植樹直後の苗木や裸地同然の植栽地のことを思い返すと、よくここまで立派な森に育ったと感慨深いものがあります。ここではこれらの植樹の意味するところについてもう少し掘り下げてみることにします。

1. 我々の植樹が目指すところ

当初の活動の目標は、気象障害によってもたらされたスギ・ヒノキ人工林のギャップ地に落葉広葉樹を植樹し、生物多様性の乏しい森林をより豊かな森林に改善することにありました。苗木はこの地域の気候帯に合わせて落葉広葉樹の高尾山在来種を選びました。そして、毎年針葉樹人工林の中に広葉樹林パッチを増やし、広葉樹の比率の高い森に変えることを目指しました。

2. 針広混交の複層林づくりの取り組み

スギ・ヒノキ林のギャップ地では被害木は樹齢が若く、伐倒は手鋸で行うことができました。また、ギャップ地は221林班のベースに近いところに多くありました。毎年1ha前後の地拵え、植樹を行いました。2008～2012年には東京神奈川森林管理署で実施されたスギ・ヒノキ成熟林の皆伐、択伐、間伐の跡地に植樹させてもらうことになりました。2008年には景信山山頂直下の219林班小班の1.4haの択伐地の樹下に約1,500本の苗木を植樹し、それまでのパッチ状針広混交林とは異なる針広混交の複層林づくりに取り組みました。

2008年植栽地（左は標準木）



2009.8.15 撮影



2019.2.18 撮影

3. 2008年植栽地の生育状況の調査と結果

2007年までのギャップ植栽地では樹木としての生育基準として「うっ閉」という概念を導入し（森通信 vol.35 を参照）、2001～2005年植栽地では植樹後7～9年でこれが達成されました。しかし、スギ・ヒノキ人工林の樹下に植栽した場合は針葉樹と広葉樹が一体となった森林を目指すため、生育基準として別の考え方を導入する必要があります。そこで、A～Dの4つに分けられた2008年植栽地の内3か所（植生の典型的なエリア）を選び、斜面に垂直に上下ラインを定め、そのライン

の左右4mのエリア内にあるスギ・ヒノキとその下層にある落葉広葉樹（群状植栽木の最高木&自生木）の樹高を測定しました（針葉樹はVertex IV超音波樹高測定器により、落葉広葉樹はメジャーと目測により測定）。そして、針広混交林の成長率として広葉樹の平均樹高と針葉樹の平均樹高の比率を算出しました。その結果、2008年針広混交林の広葉樹林成長率は28.0%であることがわかり

ました。ここでは、針葉樹と広葉樹の林齢差が57年あり、また、この植栽地の広葉樹はスギ・ヒノキ林の樹下植栽のため、択

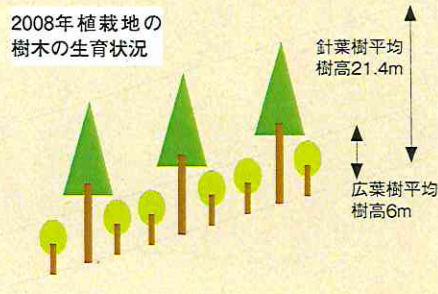
伐林といえども日照条件がギャップ地ほど良くないことがこの結果に表れていると考えられます。

221林班のギャップ再生の針広混交林ではうっ閉が一斉に始まった2012年頃から、森林性鳥類の一部の種の出現率が高くなり、ギャップ再生の影響がこれらの種に及んでいると報告しましたが（森通信 vol.73 参照）、ここでも2008年植栽地と221林班の録音定点で同一日時に採集した繁殖期の鳥類の出現率データを比較し、ギャップ再生林と針広混交林の違いを探ってみました。その結果、針葉樹林指向のヒガラ、コガラ、ツツドリ（夏鳥）は2008年植栽地で出現率が高く、センダイムシクイ（夏鳥）、ガビチョウ、イカル、カケスはギャップ再生の針広混交林を好みました。また、ウグイス、キビタキ（夏鳥）、アオバト、アオゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリなどは今のところギャップ再生林で出現率が高くヤマガラ、メジロは2008年植栽地で出現率が高いことがわかりました。以上のデータ分析から2008年針広混交複層林はギャップ再生林に比べてまだ十分に成長していないことがうかがえます。しかし、いずれの形態の森林も生長途上にあり、成熟した段階になって再度比較する必要があると思われます。

4. 今後の森林整備活動

2008年植栽地は、強度の間伐地（択伐地）のため日照条件は他の間伐地に比べて悪くはなく、苗木は良く育っていると思われます。しかし、4分割された植栽地のうちのC,Dエリアには下層に1m余のミヤコザサ、アズマネザサが繁茂し、苗木は生長を脅かされています。また、この植栽地には動物カメラを3台設置していますが、最近特にシカ、カモシカの出現が頻繁で、樹木への被害が懸念されます。ここは、ベースから遠隔の場所にあること、植栽地が広いため日常の監視が行き届かない場所ですが、生長途上にあるこの森の将来に関心を持って見守る必要があります。

謝辞 2008年植栽地はそれまでとは違う形態の混交林であり、生長も遅いため、生育状況の定量把握は今日になってしまいました。昔、ザリクボ沢植栽地で生育調査を担当していただいた方々に声をかけたところ、こころよく応じていただき、2日間の調査活動で状況を把握することができました。ご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。



女性のための楽にできる森づくり 研修会に参加して

酒井えりな



研修は台風6号が朝方過ぎていった7月28日、ベースの道具小屋前にて。今回は生徒1人に講師は機械作業班の白澤さん、組澤さん、寺田さん、諏訪さん、そして飛び入りで見てくれた峯尾さんと豪華な顔ぶれです。

メニューはチェーンソーの始業点検、ロープワークと三倍力の作り方、チェーンソー技能講習。作業のひとつひとつに「なぜ」をつけてくれる講習は機械音痴の私の頭にすんなりと入ってきました。機械は2.8kgの最軽量タイプ、最近この会に来た新顔ですが緊張なのかシロウトの私を気に入らないのかエンジンがかからず、組澤さんがなだめすかしやと動き

始めるという一幕もありました。イケメン好きか！ロープワークは他の作業をはさみながら、はいもう一回！って認知症検査みたいですね。3倍力の作り方は「あれ」というだけでカラビナや滑車が手渡されるチームワークに感心しつつ、いつも力に頼っている抜倒木の移動にスリング、滑車、カラビナの使い方をイメージすることができました。各班用セットも用意されているので気軽に使いこなせば足腰に優しい作業になる筈です。午後はチャップスを着けて丸太切り体験。急加速急ブレーキを繰り返す初心者ドライバー状態のアクセルワークでも楽々と20cm超を切り落とせる機械の力に怖さを感じます。機械の角度はグリップの向きで安定することや手元が上がる癖があること、追い口を確認するタイミングなど8つの目による細やかな指導です。講師の皆様、感謝！最後に機械の手入れを教わり、高尾の居酒屋で燃料補給し楽しい研修会は終了です。

この講習中特に感じたことはとにかく講師陣の安全に対する意識の高さです。チェーンソーは特別な人が使うものだと思っていましたが、もしかしたら私でも玉切りや坑作りで定例作業の役に立てるかもという思いが僅かに…とりあえず次はチェーンソー研修受けてみようか。

都有林プロジェクトの現状 見留一禎

木下沢梅林から当会の作業小屋に向かって、木下沢林道を700mほど遡って行くと、右手の山腹にあずまやがあり、その登山道の入り口は「2番口」、登山道沿いの沢は「2の沢」と呼ばれています。さらに林道を作業小屋方面に140mほど進みますと3番口（3の沢）、さらに300mほどで4番口（4の沢）があります。この3番口（3の沢）・4番口（4の沢）間の板当山（標高562m）の南斜面が、現在活動している都有林プロジェクトのフィールド（約12ha）です。3の沢や4の沢沿いには昔の作業道の痕跡があり、炭焼き跡や石積みも残っており、沢筋にはスギが多く植林されています。また、両沢の間の裾幅200m近くの広くて明るい尾根は、コナラを主にヤマザクラ・クヌギが生育する広葉樹林です。

当プロジェクトは2017年からこの調査に入り、同年末までに都の許可を得て道づくりと間伐作業を始め、同時に3の沢上部のギャップ地を植栽地（770㎡）として地拵えを行いました。この植栽地は、今春までに京王親子スクールの子供たちにより植樹されています。

4の沢に入ってすぐ右手のスギ林では、機械班のご協力も得て間伐し、1,600㎡の植栽地を大方作り終えましたので、来年の植樹祭にはご利用いただけます。また、4の沢の奥にある往年の列状間伐跡地4,200㎡のうち、取り敢えず下部



の2,100㎡を植栽地とすべく、今夏より作業に取り掛かります。尾根筋では、3の沢・4の沢間の連絡作業道や板当山稜線までの遊歩道なども計画し、現在までにおよそ800mを開設、今後休憩広場も設けます。春の桜や新緑また紅葉のころはもとより、常時手軽な山歩きが楽しめると思います。

毎月、第4日曜日が活動日です。皆様のご参加をお待ち致しております。

◆参照コメント◆

活動は定例作業として20回実施し、のべ265名の参加者実績があります。森林活動の調査測量、道づくり、植栽地整備、植栽、下草刈り、育成保全等々がすべて可能な地域をフィールドに活動していますが今後、多くの会員の皆様のご協力が必要です。対象作業地はベース小屋からも近くたくさんの参加が可能です。

2019年度 幹事会だより 5月～8月 主な報告

■年度通常総会の議案書及び収支・活動報告書・計画・活動提案書作成、7月より新体制スタート

幹事／監査役

新任／本山幹事（渉外 Gr） 大塚幹事（フィールド Gr）

留任／監査役 白井 日比野

オブザーバ（作業リーダー）

新任／大塚A班 山崎B班 守永D班

留任／小野C班 白沢機械班

ひとこと

2019年度は2年後の創立20周年と新5ヵ年計画スタートに向けた計画立案の年です。会員の総意を集め幹事会での議論を進める方針です。

ご意見があれば、幹事／作業班／専門班及びプロジェクトの各リーダー迄提案をお願いします。

■審議事項及び報告事項（概要） ➡は決定及び対応内容、ゴシック字体は後日状況変化内容

第37回

日時／5月13日（月）

（臨時）

18時30分～20時10分

会場／立川市女性活用センター

出席者／幹事10名、監査役1名

議長／吉川 書記／小木曾

審議事項

①総会準備（6/15開催に向けた議案書案・報告書案レビュー） ➡議案書／報告書（案）で確定、スケジュール／担当など運営案作成・次回決定へ

報告事項

②会費未納入（遅延）者 ➡長期未納者、連絡不能な方を合わせ確認実施（継続調査）

③班割り／班リーダー ➡事務局長案で仮決定、総会迄に確定、運用後見直し可（了承）
第39回幹事会で最終決定済（見直しは運用しながら進める）

④その他2件 ➡年間スケジュール追加修正依頼（了承）、日比谷フェスティバルの実施報告（報告了承）

第38回

日時／6月10日（月）

18時30分～20時00分

会場／立川市女性活用センター

出席者／幹事7名、監査役2名

オブザー2名

議長／吉川 書記／早川

審議事項

①総会運営対応 ➡総会参加者数確認及び運営担当・会場／の再確認（了承）

②次期5ヵ年計画の森林署申請（8月頃申請予定を依頼済） 森林署との打合せ実施（5/20）：新任次長、整備官にご挨拶、次期計画②依頼 ➡協定地 218/219/221 林班及び板当 201/202 を想定、申請に向け7月調査（了承）

報告事項

③HPに検索対応 ➡問題究明済／検索改善有、今後の運用は広報を中心に検討（了承）

④清新一小キャンプ ➡7/27～28で実施計画（台風で中止、別途再検討中）

⑤体験学習フェア in 八王子（8/24～25） ➡木工班対応（了承）

第39回

日時／7月9日（月）

8時30分～19時55分

会場／立川市女性活用センター

参加者／幹事10名、監査役1名、

オブザー2名

議長／吉川 書記／仁藤

審議事項

①次期5ヵ年計画 ➡協定／体験林業エリア（徐間伐、植栽）、今年度追加の申請（了承）7/6現地調査済、7/24追加調査済、及び8/23に森林署と山見予定 218/219 林班のエリアも今後、協議していく。

②協賛会員制度 ➡議論が必要（継続審議）

③森づくり協議会 ➡個人参加（了解）

④スパイクシューズ補助金制度 ➡会員一人一回で復活（了承）、（運用は事務局長が別途通知）

報告事項

⑤京王駅伝フェス2019 ➡森づくりの会の出店参加（了承、木工班、窓口 小木曾）

⑥富士電機フェス（8/23） ➡参加（了解、木工班）

⑦コニカサマーフェス（8/28） ➡参加（了解、木工班）

⑧安全管理の車両 ➡板当作業に合わせ配置（了承）、滝ノ原林道が工事中（都度対応）

第40回

日時／8月5日（月）

18時30分～20時20分

会場／立川市女性活用センター

出席者／幹事10名、監査役2名、

オブザー3名

議長／松川 書記／組澤

審議事項

①来年の植樹祭の検討（チームを設置し、案作成） ➡国有林5ヵ年計画及び都府林PJ計画を勘案して10月目途に案作成へ（了解）

②協賛会員制度、入会希望者の受付方法、森づくりの会の対外活動などの協議 ➡幹事会での共通の認識が必要な事案であり擦り合わせの議論を行う。（継続審議）

報告事項

③次期中期申請の事前調査の報告（201 林班、202 林班） ➡8/23 管理官と山見予定

④親子森林体験スクール反省会（7/29、対京王） ➡高評価、過密日程見直し等要望。

⑤滋慶卒業生の活躍見学ツアー予定（9/7 決定） ➡詳細は確定後案内（早川幹事）

⑥その他

・2019年度植樹地の篠竹折られ？、苗木が活着悪？（D班） ➡状況再調査予定

・台風等の中止判断は？（A班） ➡台風等は前日夕方に事務局長からリーダーへ中止通知

・班分け後参加者が少なく、作業に支障の可能性有り（C班） ➡状況観察後報告

事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

5/18	慈恵学園森林体験教室 2	21名 (参加者他44名)
5/24 ~26	三宅島 P J	7名
5/26	都有林 P J	9名
5/29	上柚木公園整備	7名
6/1	刈払機講習会	5名 (内、参加者1名)
6/1	環境フェスティバル (八王子)	7名
6/8	定例作業	72名
6/9	親子森林体験スクール	15名 (参加者他25名)
6/15	通常総会	37名 (定足数123名)
6/23	都有林 P J	10名
6/28 ~30	気仙沼視察会	15名
7/13	定例作業	81名
7/27 ~28	清新第一小父子キャンプ	中止
7/28	都有林 P J	5名 (中止も参加者あり)
7/28	女性のための楽にできる森づくり研修会	7名 (内、参加者1名)
8/2	上柚木公園整備	6名
8/10	定例作業	51名
8/23	富士電機フェスティバル	
8/24 ~25	八王子体験学習フェスタ599	
8/25	都有林 P J	
8/31~9/1	チェーンソー特別講習会	

今後のスケジュール (予定)

9/14	定例作業
9/22	都有林 P J
9/28	第二回機械作業実践講習会
10/12	定例作業
10/24 ~27	三宅島 P J
10/26	第三回機械作業実践講習会
10/27	都有林 P J
11/9	定例作業
11/16	紅葉鑑賞会
11/23	第四回機械作業実践講習会
11/24	都有林 P J

会員動向

退会 ご苦労様でした!

松田千代子さん 三上良治さん

菊地啓子さん

入会 ようこそ!!

大森千高さん、小松信郎さん (6月)

川原洋志さん (7月)

毎月実施する定期活動の専門班／プロジェクト

ものづくり・小屋管理班
(佐々木リーダー)



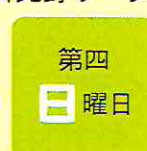
哺乳動物生態調査班
(山崎勇リーダー)



植物生態調査班
(千谷リーダー)



都有林プロジェクト
(日比野リーダー)



編集後記



会報の「高尾の森」通信の編集も早いもので担当して丸3年が経ってしまいました。新体制となった時から編集方針も変更し、コーナー新設や読みやすくビジュアル化したつもりでしたがいかがでしたか?今回は表紙を少し斬新な雰囲気にして見ましたがご意見は? (小山圭司)



ザリクボの滝

